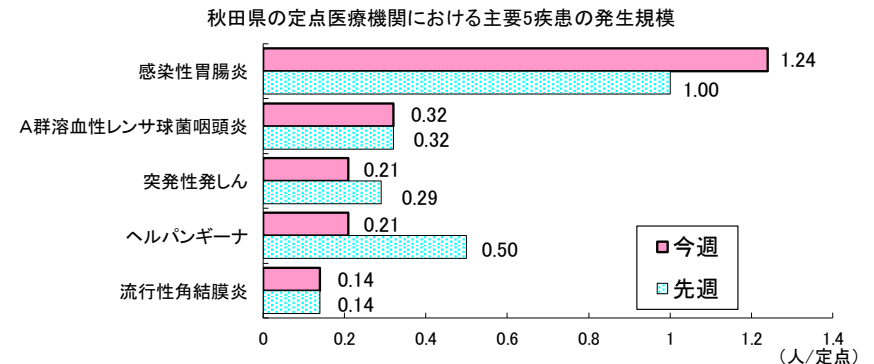




【第37週の発生動向】

< 定点把握対象疾患(週報)・前週比 >

1. 感染性胃腸炎は、県全体で1.2倍に増加しています。保健所別では、秋田市、能代、由利本荘、横手、湯沢で増加、大館で同規模、秋田中央、大仙で減少しています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で同規模です。保健所別では、大館で増加、秋田市で同規模、秋田中央、大仙、横手で減少しています。
3. 突発性発しんは、県全体で28%減少しています。保健所別では、北秋田、秋田中央で増加、由利本荘で同規模、秋田市、大館で減少しています。



発生報告

< 五類定点対象疾患(週報) >

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢				
	第36週	第37週	増減	第36週	第37週	増減	第36週	第37週	増減	第36週	第37週	増減	第36週	第37週	増減	第36週	第37週	増減	第36週	第37週	増減	第36週	第37週	増減	第36週	第37週	増減					
RSウイルス感染症	0.29		↘	0.43		↘												0.50		↘				0.67		↘	1.00		↘			
インフルエンザ																																
咽頭結膜熱	0.06	0.09	↗		0.14	↗											0.25	↗	0.25	0.25									0.33		↘	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.32	0.32		0.14	0.14		0.25	1.50	↗							0.50	0.25	↘				1.00	0.75	↘	1.00		↘					
感染性胃腸炎	1.00	1.24	↗	1.29	1.43	↗	0.50	0.50						2.00	2.33	↗	1.50	1.25	↘		0.50	↗	1.25	0.50	↘	1.00	1.33	↗	1.00	3.33	↗	
水痘	0.06		↘											0.33		↘				0.25		↘										
手足口病		0.06	↗																													
伝染性紅斑		0.03	↗																													
突発性発しん	0.29	0.21	↘	0.29	0.14	↘	1.00		↘	0.50	1.00	↗																				
ヘルパンギーナ	0.50	0.21	↘		0.14	↗				0.50		↘	5.00	2.00	↘							0.25		↘								
流行性耳下腺炎																																
川崎病																																
急性出血性結膜炎	0.14		↘	0.33		↘				*	*		*	*		*	*										*	*				
流行性角結膜炎	0.14	0.14			0.33	↗				*	*		*	*		*	*							1.00		↘	*	*				
細菌性髄膜炎																		*	*													
無菌性髄膜炎																		*	*													
マイコプラズマ肺炎																		*	*													
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																		*	*													
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)																		*	*													

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。
「*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

- ・二類感染症の結核が大館保健所管内から1人、報告されました。
- ・三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症が大仙保健所管内から1人、報告されました。
- ・五類感染症のウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)が大仙保健所管内から1人、報告されました。
- ・新型コロナウイルス感染症が秋田市保健所管内から19人、大館保健所管内から18人、秋田中央保健所管内から2人、由利本荘保健所管内から4人、大仙保健所管内から7人、横手保健所管内から2人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	1週-36週		37週
		全国	秋田	秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	10724	54	1
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
三類	コレラ			
	細菌性赤痢	6		
	腸管出血性大腸菌感染症	2130	16	1
	腸チフス			
	パラチフス			
四類	E型肝炎	317		
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	50		
	Eキノコックス症	20		
	黄熱			
	オウム病	7		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	5		
	キャサナル森林病			
	Q熱	1		
	狂犬病			
	コクシジオイデス症			
	サル痘			
	ジカウイルス感染症			
	重症熱性血小板減少症候群	90		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
ダニ媒介脳炎				
炭疽				

類型	疾患名	1週-36週		37週
		全国	秋田	秋田
四類	チクングニア熱			
	つつが虫病	136	1	
	デング熱	4		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	279		
	日本脳炎			
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症	1		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ポツリヌス症	5		
	マラリア	17		
	野兔病			
	ライム病	17		
	リッサウイルス感染症			
リフトバレー熱				
類鼻疽				
レジオネラ症	1338	15		
レプトスピラ症	14			
ロッキー山紅斑熱				
五類	アメーバ赤痢	372	2	
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	134	1	1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1306	24	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	14		
	急性脳炎	234		
	クリプトスポリジウム症	4		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	124		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	416	3	
	後天性免疫不全症候群	711	1	
	ジアルジア症	27		
	優襲性インフルエンザ菌感染症	139	1	
	優襲性髄膜炎菌感染症	2		
	優襲性肺炎球菌感染症	952	7	
	水痘(入院例に限る)	189	3	
	先天性風しん症候群	1		
	梅毒	4920	30	
	播種性クリプトコックス症	95		
	破傷風	64		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	86			
百日咳	426	4		
風しん	8			
麻しん	5			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	3			
* 新型コロナウイルス感染症		1603	52	

* 新型コロナウイルス感染症

トピック

<9月28日は、世界狂犬病デーです！>

狂犬病は日本・英国・オーストラリア・スカンジナビア半島の国々など一部の地域を除いて、未だに世界の多くの地域で発生しており、年間約6万人が亡くなっています。ヒトや動物における狂犬病の現状と予防法などの啓発を目的として、狂犬病ワクチンを開発したパスツールの命日にちなみ、2007年に9月28日が世界狂犬病デー(World Rabies Day)に制定されました。

■日本における発生状況

日本では、狂犬病予防法の施行により、1957年のネコの事例を最後に、狂犬病の発生はゼロとなりました。しかし、海外で感染したヒトが帰国後に発症する輸入症例として、1970年1例、2006年2例、2020年1例の報告があります。

★日本と同様に清浄国・地域とされていた台湾で、2013年に狂犬病ウイルスに感染した野生のイタチアナグマが確認されました。さらに、イタチアナグマに咬まれた犬の発症例も報告されています。“狂犬病の発生は無い”とされている国・地域であっても、ウイルスが野生動物の間で維持されていたり、発生地域からの動物の輸入により国内にウイルスが持ち込まれたりする危険性があります。

■感染源・症状

狂犬病はイヌだけの病気ではなく、ほとんどの哺乳類が感染し、感染源となる可能性があります。イヌの他にネコ、アライグマ、キツネ、コウモリ等が感染源となった例が報告されています。狂犬病ウイルスは感染動物の唾液に含まれ、咬まれたり、傷口をなめられたりすることで感染します。一般的に1ヶ月～3ヶ月程度の潜伏期の後、液体を飲むとすると筋肉がけいれんする恐水症や興奮、麻痺、錯乱等の神経症状が現れ、最終的に呼吸麻痺で死亡します。医療の進んだ現代においても、残念ながら発症後の有効な治療法は見つかっていません。

■予防

・海外ではむやみに動物と接触しないようにしましょう。もし海外で動物に咬まれたり引っかかれたりした場合は、直ちに石けんと流水で傷口を洗った後、医療機関を受診してください。早期の複数回のワクチン接種により、発症を防ぐことが可能です。

・日本では法律により、全てのイヌが狂犬病の予防注射を年1回受けることになっています。イヌを飼育されている方は、必ず接種を受けさせてください。イヌのワクチン接種はヒトの感染予防にもつながります。

※国内でイヌに咬まれた場合、当該イヌを2週間健康観察し、その期間中に発症しなければ、ヒトへの感染の可能性はないと判断されます。医療機関受診に併せて保健所にもご相談ください。

感染症の集団発生報告

かぜ様症状の集団発生1件、疥癬の集団発生1件の報告がありました。

事例の種類	所在地	施設名	報告日	有症者数			把握期間	症状
				園児、入所者等	職員	計		
かぜ様症状	大仙市	大曲乳児保育園	9/13	45名のうち 12名	17名のうち 0名	12名	9/10 ~ 9/13	発熱、咳
疥癬	八郎潟町	ショートステイのぞみ	9/15	68名のうち 12名	35名のうち 0名	12名	9/14 ~ 9/15	湿疹、かゆみ



【注意報・警報の発生状況】

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
注意報・警報はありません。		

■ 注意報・警報の定義

【注意報・警報の定義】

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			対象疾患	警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		